



▲医療機能最適化検討会議

舞鶴市の人口減少と高齢化は今後も急速に進むと予測され、25年後の令和32年には高齢化率が40%を超える見込みです。そして、人口構造の変化に伴い、医療需要や疾患構造も変化し、慢性疾患の増加など、医療提供体制にも大きな影響を与えます。すでに病床稼働率も低

本的な原因であり、その解決には抜本的な医療提供体制の見直しが必要であるとの結論に至りました。そして、令和6年6月から開催した最適化検討会議では、今後、舞鶴市に求められる医療機能をどのように確保していくのか、診療情報や経営情報などのデータ等に基づく検討を進めてきました。

令和5年度に設置した「持続可能な地域医療を考える会」では、人材不足や救急医療体制などの医療現場で直面している課題の背景には、市内に4つの公的病院があること、医療人材を含めた医療資源が分散せざるを得ない状況にあることが根

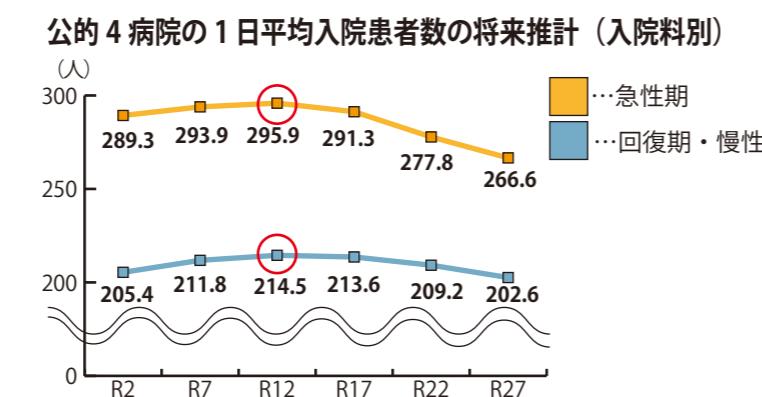
## 地域医療の現状と課題

迷する中、入院患者数は令和12年をピークにその後は減少に転じることが予想されており、今後減少が見込まれる医療需要に応じた医療提供体制を整えていく必要があります（参照・下グラフ）。

全国的に見ると、舞鶴市を含む中丹医療圏の医師数は少ないわけではなく、診療科によっては近くの自治体より医師数は充実しています。

では、なぜ舞鶴市で医師不足が問題になるのか。それは、市内の複数の病院に医師が分散し、病院ごとに医師が不足する状況になっているためです。

めどする他の医療従事者にとっても同様であり、今後の医療需要を見据えた時、現在の体制のままでは、各病院における負担が大きくなり、医療の質の低下と人材の流出につながることも懸念されます（参照・左表）。



医師をはじめ他の診療科の方々が、専門性を高め、医療の質や安全性も高めることができます。これは、看護師をはじめ医療機関の選択と集中、分担と連携の考え方に基づき、各病院の特色を生かしながら「あたかも一つの総合病院」として、医療を提供していました。

## 公的4病院の常勤医師数

診療科	セントラル 舞鶴医療	病院 舞鶴共済	病院 舞鶴赤十字	病院 舞鶴市民	合計 4病院
内科		1	3	1	5
外科	2	3	2		7
消化器内科	2		1		3
循環器内科	2	6	1		9
心臓血管外科		4			4
脳神経内科	4				4
脳神経外科	6				6
小児科	7				7
(内科)・リハビリテーション科			1		1
整形外科		2	5		7
耳鼻咽喉科	2				2
皮膚科	1				1
眼科	1		2		3
泌尿器科	1	4			5
産婦人科	2	3			5
麻酔科	3		1	1	5
精神科／精神神経科	10				10
歯科口腔外科		3			3
総計	43	26	16	2	87

# 地域医療シンポジウム

～次世代につなぐ安全安心な医療提供体制を目指して～

舞鶴市医療機能最適化検討会議として（目指すべき公的病院の再編統合パターン）



舞鶴市  
MATSUYAMA-CITY

4つの視点（需要予測、医療の質、経営効率、人材確保）を踏まえた  
今後の医療提供体制として想定される再編・統合パターン



2040年当人口  
算定を踏まえ、現地の実情に応じて、既存の病院建物も活用しながら  
再編・統合に要する施設整備面を考慮すると、既存の病院建物も活用しながら  
再編・統合することが現実的と考える（経営主体について別途検討）。  
これで、医療機能を具体的に算出するため、医師派遣元である大学や各病院本部の意向を踏まえた詳細シミュレーションを実施する必要性を確認。

この間、大学（医師の派遣元・医師の教育機関）や、病院本部にも訪問し、経過等を説明。

今後、再編・統合パターンに即した詳細シミュレーションを行い、目指す姿を決定する。



## 次世代へつなぐ 医療提供体制を目指して

しかし、舞鶴市においても人口減少と少子高齢化が進展し、医療現場では医師不足、看護師不足、救急医療の受け入れ体制、さらには厳しい経営状況など、さまざまな課題に直面しています。

そこで、令和5年に新たに就任した鴨田市長が舞鶴医師会長と公的4病院長に呼びかけ「持続可能な地域医療を考える会」を、令和6年度から新たに京都府立医科大学の教授が加わり「舞鶴市医療機能最適化検討会議（以下、「最適化検討会議」）」を開催し、地域医療の将来像に関わる議論を行いました。

今回は、持続可能な医療提供体制の実現に向けた令和6年度の取り組みを紹介します。

舞鶴市には、舞鶴医療センター、舞鶴共済病院、舞鶴赤十字病院、市立舞鶴市民病院の4つの病院（以下、「公的4病院」）があり、平成24年から「医療機能の選択と集中、分担と連携」の考え方に基づき、各病院の特色を生かしながら「あたかも一つの総合病院」として、医療を提供していました。

しかし、舞鶴市においても人口減少と少子高齢化が進展し、医療現場では医師不足、看護師不足、救急医療の受け入れ体制、さらには厳しい経営状況など、さまざまな課題に直面しています。

そこで、令和5年に新たに就任した鴨田市長が舞鶴医師会長と公的4病院長に呼びかけ「持続可能な地域医療を考える会」を、令和6年度から新たに京都府立医科大学の教授が加わり「舞鶴市医療機能最適化検討会議（以下、「最適化検討会議」）」を開催し、地域医療の将来像に関わる議論を行いました。

今回は、持続可能な医療提供体制の実現に向けた令和6年度の取り組みを紹介します。